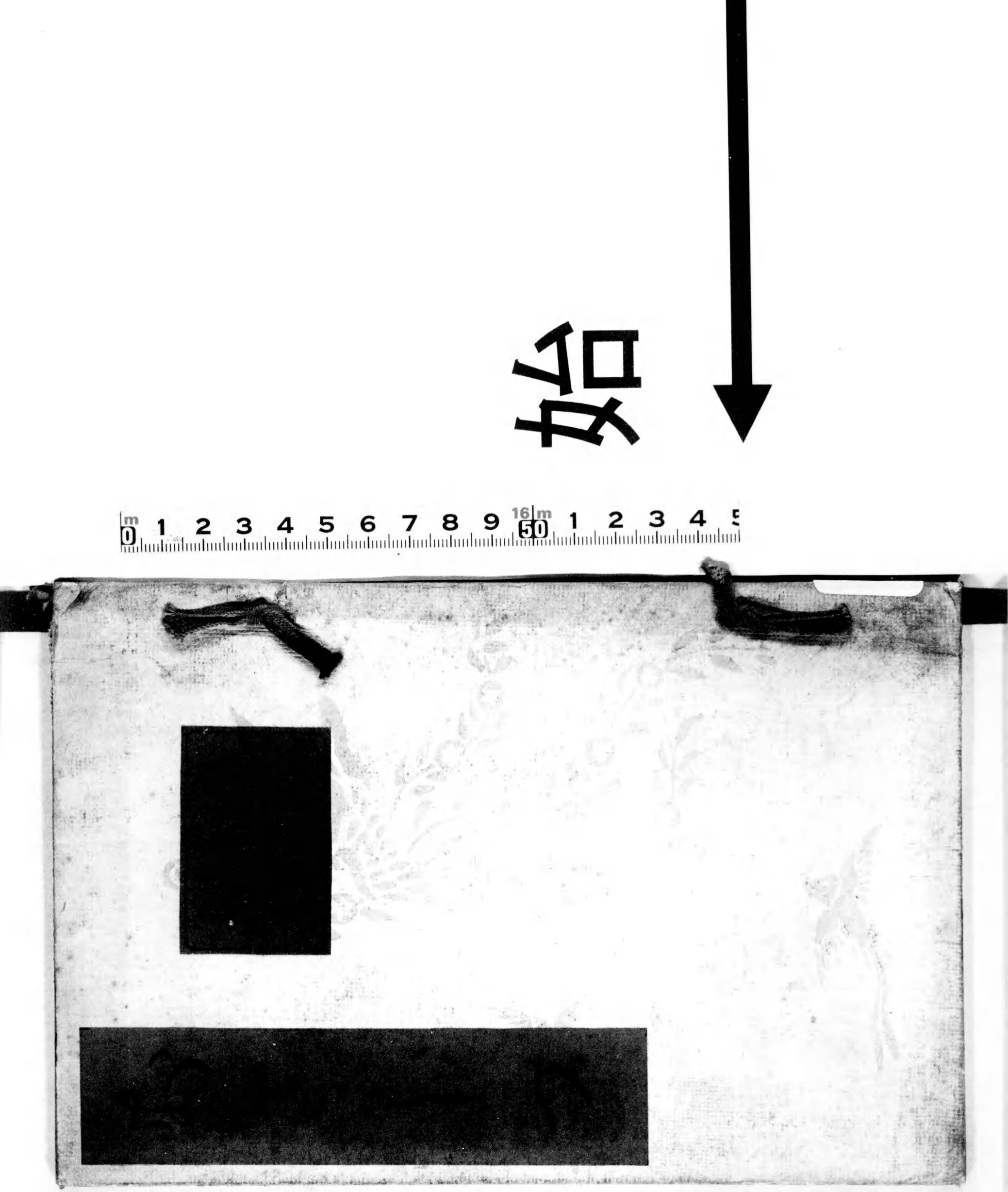
袋口
m 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 16 m 50 1 2 3 4 5

おもくつ

自明治十九年十二月
至明治廿一年十二月

チ子105
873

宮内省圖書寮

御さしづ

自明治十九年十二月
至明治廿一年十二月

大正
1.27
内交

御さしづ

△明治十九年十二月神様御せきこみにて、御身の内御障りに付明十二日の夜より神樂つとめをなせりけれども鳴物は不揃、同月内伊藏さんへ御伺ひを願ふと、きび敷御指圖有たり

（神様づきの間にて伺ひ中其時指圖）

もふ十分つみきるこれまでなによの事もきかせをいたが、すつきりわからんなにほどいふてもわかるものはないこれがざんねん、うたがふてくらしいるが、よくしあん

せよ、さあ神がいふことうそなら五十年前よりいまゝで此迄つゞきはせまい、今までにゆふた事みゑてある、これでしあんせよ、さあもふこのまゝひいてしまふが治めてしまふか。

△十六日神様御咄し

さあ〳〵こしごつてよわつたが、病でむつかしいこおもふか、病でも無い、よわつたでもないで、だん〳〵ときかしてあるでよふしやんせよ。

△右仰せあり、又十八日には御氣分悪しくひるすぎになり皆々驚き又そふだんして御次の間で御伺ひ午後三時頃、親様の御身の上如何致して宜敷しふ御座りましよふか、御勤も毎夜致さして頂きますか夜ばかりでなく、晝も勤をいたさして貰ひましたがすつきりなるやふ御受取下されましようかと御伺ひ

さあ〳〵、これまで何よのことも皆こいてあるでもふごふこふせわいはんで四十九年前よりの道の事、いかなる事もこふつたであらふわかつたるであらう、たすかりたるもあろう、一時しやん〳〵するものない、遠い近いも皆

引よせてある、事情もわからん、もふごふせいこふせいの指圖はしない、めい〳〵心しだい、もふなにもさしづはしないで

△右仰せありたるに依て、一同打驚き皆々談じ合ひ、中山様へ申上て、めい〳〵心定め、其日の人數は、前川菊太郎、梶本松次郎、桝井伊三郎、鴻田忠三郎、高林眞吉、辻忠作、梅谷四郎兵衛、増野正兵衛、清水與之助、諸井國三郎、なり。右の者中山様へ御心を定め、神様の道の御咄しの事をせまりし處、何れ考の上と仰被下たるに付、九時過ぎに又々相談し、掛りし者鴻田、桝井、梅谷、増野

清水、諸井、中野右の者より中山様の御返事なきゆへ前川、梶本兩氏の意見を問ふ、兩氏も何れなり共、先づ中山様の御返事を聞く事となり、同夜は夜通しで御返事に神様の仰通り、勤するには上の處如何やと心配にて決定せず、又中山様より神様へ伺ふ事となり夜明て皆々休息す、明治二十年一月十一日、舊十二月二十六日朝神様の御氣分宜敷御床の上にて御髪を通し被遊たり、同十九日夜亦御伺ひの返事を待ちたりしに、明方三時頃伺ひの御指圖の旨を承るに、中山先生、前川梶本兩人差添伺ふ。

いかなる處尋る處わかりなくばしらそふしつかり〳〵
きゝわけ、是々よふきゝわけもふならん〳〵前以て傳て
ある六つか敷事をゆひかける一つ事に取てしやんせよ
一時の處ごふゆふ事情も聞分け

△押て伺ひぜんもつて傳へあると仰あるは勤
めの事で御座りますか勤致すにはむつかし
い事情で御座ります
今一時にはこんで六つか敷であらうむつかしいこゆふ
はしあんにをさまるなが〳〵四十九年以前からなにも

むからんむつかしいことがあるものか

△引續て講習所を立て一時の處勤けいこをさ
してもらいこふ御座ります
あんしんができんこならばまづ今の處をだん〴〵だん
〴〵こゆふこころさあ今こいふ今こいふたらいまぬき
さしならぬでしようか

△引續て勤め〳〵こ御せきこみ被下ますが只
今の親様の御障りは人ずう定めで御座りま

しようかごうでも勤めいたさねばならんで
御座りますか
さあ〳〵夫れ〳〵の處こゝろさだめの人ずうさだめ事
情なければこゝろがさだまらんむねしだいこゝろしだ
いこゝろのこくしんできるまでは尋ねるがよいおりた
こいふたうひかんで

△引續きて教會本部をおく其上は神樣の仰い
かなる事も致します
事情なくば一時定めできがたないさあいちじ今それそ

れこの三名のこころで急度定めおかねばならん、何か願
ふ處、其處にまかせおくかならずわすれぬよふにせよ

△親樣の御身上は如何こお伺ひ
さあ〳〵すつきりろく地にふみならすで、さあ〳〵こび
らをひらいで〴〵一れつの地さあろく地にふみだす、さ
あ〳〵こびらをしまりて地ならそふか(戸びらをひらく
こ答)(伺ひの扇此通りに開)なるたてやひごふいふたてや
い、いづれ〳〵引よせごふゆふ事もひきよせなんで
もかでも引よせる中一れつにこびらをひらく〳〵

〳〵ころりとかわるで

△明治二十年二月十六日(舊正月二十六日)の夜
神様御氣分宜敷く御床の上にて御髪をなを
し遊ばされ二十六日の夜御つとめ評議につ
き御伺ひ
さあ〳〵いかなるもよふきゝわけよ〳〵〳〵、さあ〳〵
いかなるもごふもさあ今一時ぜん〳〵より毎夜とつた
ゐる所、今一つの此地場はよふからう、今からといふたな
あ、さあ今といふ所さとしてある今から今かゝるといふ
を、ぜん〳〵にさとしてあるところ、さあいまのいまはや
くの所いそぐさあいふ所、あふふんとゆふ所あふまつと
いふ所あらふさあ〳〵一つの所法律が法律がこわいか
神がこわいか法律がこわいかこのさきごふでもこふで
もなる事ならしかたがあるまい前よりしらしてある、今
といふ刻限今さとしじやないごふゆふ所のみちじやな
い尋ぬる道じやない是一つでわからふ

△同日十二時先生方本勤をしまふと共に親様
の御社がつめたくなり遂におかくれになり

あそばさる

明治二十年舊正月廿六日午後新二月十六日

△明治十九年十二月廿六日より、教祖様の事情御歳八十九歳の時一寸御障りつき、御やすみになり同舊十二月廿五日の夜より本部御神樂幷に十二下り始まり同舊正月廿五日夜迄毎夜御勤あり又廿六日正午十二時より教祖様の御身上、身にせまり其れより甘露臺様の處にて勤かぐら御勤めあとへ、十二下りの御勤其時教長公よりだんじ先生方御談じの上、御勤

有此時警察より日々きびしく敷差止めある中に付、右の勤の人ずう若し御勤中場にて警察よりとりたてにきてもいのちすてゝいくといふ定めた心の者御勤めする事と仰せ下されそれより皆々心十分定めそのよふいをして御勤にかゝりたるもの十九人教長公始め前川菊太郎、増野正兵衛、清水與之助、山本利八高井直吉、鴻田忠三郎、桝井伊三郎、喜多治良吉〻男十四名教長奥様始め永尾芳枝、上田いそ、高井いね、中田かじ〻女五名總人數十九人、右の御勤は午後一時より始まり二時まで御勤めしまひになるのと教祖様

の御勤め相濟時間と御息引取時間と一分間も違はず夫より内藏の二階の中にて御本席樣に御伺ありさあ〳〵ろふくのぢいにするみな〳〵そろふたか〳〵よふきゝわけこれまでにゆふた事、ぢつのはこゑいれてをいたが神がとびらひらいてでたから、こどもかはいゆゑ、をやのいのちを二十五年さきのいのちをちゞめていまからたすけるのやで、しつかりみていよ、いまゝでこれからさきとしつかりみていよ、ごびらひらいてろふくのぢにしよふか、とびらしめてろくのちにとびらひらいてろくのぢい、今してくれとゆふたやないか、をもふよう

にしてやつた、さあこれまでこどもにやりたいものもあつたなれどよふやらなんだまた〳〵これからさきだん〳〵にりがわたそふ、よふきいてをけ

△この御咄し下され是より御葬祭のこしらへ舊二月一日に御葬祭其時齋主は守屋秀雄氏なり、副齋主は櫟本辰己氏、祭官は三輪の大神教會の教職其時天理教會の教導職は二百名以下其時諸所より參拜人十萬以上有之御地塲より墓地は勾田頭光寺にて送り人は墓地迄人が續きたり御教祖の御歳九拾歳御歸

幽、諡は眞道彌廣言知女命と守屋秀雄氏談事の上御名命せり

△明治二拾年三月拾五日夜る(舊二月廿一日)御本席様へ入込刻限咄し

さあ〳〵いそがしい〳〵、そをじや〳〵あちらに一寸こちらにもそんな事あるかいなどおもているちがうで、さあそをじやほをきがいるでたくさんいるで、つこふてみてつかいよいはいつまでもつかうで、つこふてみてつかひかつてのわるいのは、いちごきりやで、すまからすまま

ですつきりそうじや

△三月十六日午後二時(舊二月廿二日)刻限の御咄し

さあ〳〵このよふにきかいがなやんでゐる米もたくさん水車もたくさんある、ありながらごふもきかいがそろいない、それでごふも白米にする事がでけんきかいがそろいなければ一人のきかいもつかう事でけん、それ〳〵へ身の内さわりつけてあるみづもたくさんこふと白米にせん事には、たべさす事がでけん、ここをよふきっわけ

てたんのふしてくれねばならん

△明治二拾年三月十六日午後八時(舊二月廿二日)刻限の御咄し

さあ〳〵勤めかけた〳〵、六年の間六年以前より道すじどのよふな事もあつてあろふ、なんじや天理王命の族をあちらこちらに立て、なんとかわるもの一人もよせつけなんだ日もあつた又くろきをきせた日もあつた、實か誠かまことが實か、みるねばわかるまいそこでこくしんがいたやらふ

△三月十六日午後十一時刻限に咄し

さあ〳〵かわる〳〵、いまゝでよわきものがつよくなるいまゝでつよきものがよわくなる、めるにみるねばわかろふまいはなれてはわかろふまい、そばにありてもかなをふまい、月が變ればころつとかわる弱いものがつよくなる、つよいものがよわくなるそこでわかるといふ事をしらしてをく

△三月拾七日午後四時刻限の御咄し(舊二月廿

三日)

さあ〳〵をさめにやならん〳〵、ここもかも皆すつきりと治めるごのよふな事もみるもきくもみなをさめるごのやふなさしづ聞も神の指圖きくごをもわねばならんで

△仝月仝日午後

さあ〳〵いまゝでこいふは、しごと場はほこりだらけでごふもならん、むつかしい〳〵なにもわからん、なにもわからんではないわかつてはある、なれ共ほこりだらけやさあ〳〵これからは、あやにしきのしごとば錦をしたてるで、こゝしばらくのあひだはけふは食事があじがないごふいふ日もある又すゝむ日もある、あちらもこちらもほこりあつてはにしきの仕事場にならん、さあすつきりごしたるしごとばにするのやであやにしきの仕事場にはならん、さあすつきりごしたしごと場にするのやで、あやにしきのしごとばにしたてる

△三月拾八日夜刻限(舊二月廿四日)御咄し

さあ〳〵ごん〳〵と車につんで引きだすよふな咄しや

で、早いで〳〵さあ〳〵事を思ふやない、大きな石をごん〳〵引だすあゝ〳〵こふであつたか、むつまじいことゆいかける、きいたるまでわからんでむねにしいかりこもつて、いよ聞いたるまでは刻限じゆぶんはづすな、あちちより一本こちらに一本あちら半本こちより半本それをちやんとよせしあげる

△三月拾九日午前壹時二十分(舊二月廿五日)刻
限の御咄し

さあ〳〵しつかりきかねばわからん〳〵、わからん事は

尋ね〳〵、尋ねにやわからんでいまゝでのながごふちう道の事情によりてまことなんぢうな事もあり、なさけないと思ふ事もありその中内々一度二度よりほんにをもしろいといふよふな事がなかつたで〳〵、さあ〳〵よふ〳〵のところ、道なれごごふも一つがわからんによつてざんねん〳〵といふてくごけつめ、これまではりこふなこごもゝあり、又ごんなこごもゝあり、このまゝでは樂みがない、しごと塲といふてあれごも、いふてもちこんだそれゆへに、やりたいものがたくさん〳〵にありながら、一寸かくれたざんねん〳〵といふのは、わたさにやならん

ものがわたさなんだが、ざんねん〳〵西から東へ東から西へ、北から南へさあ〳〵尋ねにいかねばわからん、しじゆふこれからさきの道はいふまでやない

△三月拾九日午前五時刻限(舊二月廿五日)御咄し

さあ〳〵をふく〳〵のその中に、いまのみちほどるらいみち、今の道ほどかたい道はない、さあ〳〵いまの咄しわみな今迄のゆへのご利やくで、今迄はこのけつこふなる道をまことけつこふと思てきくものがない、今迄と

いふは聞いたるものもあり、其場限りのものもあり、聞かぬものもあり、そこで日がのびたのやで、世界ではごふやろかこふやろか、ぶつぶれるであろが、いやそをではあろまいが、これではごうもならん、あれではごふもならん、もふやめよふか、もを一ついこふか、さあごうもならん、さあごふしよふ、これみなめへ〳〵の心からやでな

△三月拾九日(舊二月廿五日)午後十二時より一時迄の刻限御咄し

さあ〳〵しやん〳〵、いまいちじすぐはや〳〵、これから

だん〳〵刻限咄、さあ〳〵もをそのばふんで、後はあちらこちらきゝにくるのやら、いつまでもをなじ事をする、たゞこふきといふ、それ〳〵のところより、こくげんあかきはあかき、くろきはくろきものにつれられ、さあ〳〵だん〳〵早や〳〵たゞ仕事場、それといふはもと〳〵よりきゝこみたらん、今にきいてるものもある、これをきいてをけ、一度二度なんにもならんまたつとめ一度二度たいてい方はよい、元の方はゆふてる場なにやらわからん、これまでといふは日々もりを附とゆふは、いく度もはやくもりの指圖なれども、聞のがしこれはみがきたて、掃除を行き屆き、さあ〳〵なにを尋ね聞てくれ、あちらしづなんでも、理にかふ能事ならなんごきにでも、尋ねかへ、二度三度も尋ね、一言きゝて銘々の事を忘れ

△三月十九日(舊二月廿五日)夜四時伺中山代理きく元の咄し、きく大工といふて知たは神一條しごと場は神一條、北はかじや南は大工で神一條、さあ〳〵尋ねる處、事情しらす、又々心で知らせをくごふでも皆其日くるなら働きも十貫目渡るも有、二十貫目渡するも皆心次第是れ心盡せしほど、目札をつけて渡す、さあ〳〵附る其刻

限事をしらす、大勢ではざわつく、たれがふでこりゆはん
さあ〳〵一人でもよいのやで、たいそふせこはゆはん、神
のさしづゆはん

△三月廿日(舊二月廿六日)午後一時三十分
鳥渡正月廿六日これまではなしてある、さあ〳〵事をは
じめ、二月廿六日こゆふは今初めやで、をほく初まりをい
〳〵さあ〳〵今一時世界もわからず、世界も識願ふしぎ
や夫々の道一寸つけかけた

△三月廿日(舊二月廿六日)午後四時御咄し
さあ〳〵刻限、さあ〳〵さわがし、刻限鳥渡なりこゆふて
置、ごふでもこんな事なら、もふちいと早々しあん、四五年
まへにまこまりついてある、いまはごふであすこあなた
君のしあんふしぎな、尋である今ちよつと咄して置く

△三月廿日(舊二月廿六日)夜午後七時刻限御咄
し
さあ〳〵〳〵所々國々さあ〳〵ゆきわたる、月々だんし
これまでの道深入十分てびろいみちも、そろ〳〵印をう

ちかける、さあ〳〵いつことわ、わかるまい、さあ〳〵今に印うちかけどこからどこまであぶないみちさあ〳〵どこのこゝまでもおるささあ〳〵一寸はなししてをかねばならん、いつまでさとしてもきくのばかりではわすれるどふせこふせはゆわん、いまといふたる事は、一つこゝろない用すぐにとりかゝり、しんの夜側がこふりならん、休である場でとりつぐ、その心にのりてさしづする、しばらくの間わ、どふかこふか、こふゆう事わ、すつきりこめをくがよい

△三月廿日夜九時の御咄し

さあ〳〵みちからよふきけ、いらん處へ目をつけ、なるほどこふわ、それ〳〵よし、さあこふやどふや、みな神かしてゐるのや、願ふてけん、ねがわずできる、さあ〳〵どんなことをしてもかなわん、めい〳〵のためになにもかまわず、いづれのちめん、かしこのちめんかまわず、誰がしんのしあん

△三月廿日(舊二月廿六日)夜午後一時御咄し

それ〳〵きいて一寸とひ組替樂しみちなるや、こふなる

願の道言事もふさもと、樂むの内、刻限なるならん、みちなにをしてゐるやら、こふいふやふな事もゆいまゝわけ、こくげん延し、さあ〳〵しあん、五十年目にめでみてかいしん、日送りして言ひ咄ししてをく

△三月廿二日(舊二月廿八日)二時御咄し

さあ〳〵ほつてをけ〳〵、だれかれをかたきとゆふのやない、大風〳〵大風はどこにあるともしれんもの大風どゆふものは、どのようのをほきなものでもこける、つぶれる大風やで風は神や、風がかしのゝふては、はこにものを入

れてふたをしめきりたごとく、くさろふよりしよふのないもの、かぜがそよ〳〵あるので、半日や一日もをくれるで、人のゆふ事も、はらをたてる處で、はらのたてるのわ心のすみきつたことはゆわん、心すみきつたらば、人がなにごとをゆふてもはらがたゝぬ、それがこころのすんだんやいまゝでに教へたるは、はらをたゝぬよふなにも心にかけぬよふ、心すみきる教へやで、今迄の修理肥しで造りあげた米が、百石もろたら百石だけある間は喰て居らるゝ今度ない世界を初めたる親にもたれていれば、しよふがいの末代のさづけやで、これは米にさとしてちよつとは

なしておく

△三月廿二日(舊二月廿八日)夜三時御咄し

ほかの事どふゆふ事をはこびつけがたない、どふこふのをもわぬこゆふ事もゆふにをよばぬ、どふでもこふでは一寸のにょひ、六つかしくゆひかける、又それ〳〵の處なんと一寸つまんだところに早くいかんで

△三月廿二日夜四時頃

なによの事も事やないからなにの事きゝのがしするゆ

ゑ、にたゑるにたゑられん、ききのがさず、百度二百度三百度やない、たゑるにたゑられん、めい〳〵それ〳〵早く何願たひてひの事は、それよりそれへ傳ゑ、つたゑるだけはせねばならん、いつまでも〳〵書た如くこふいふ事がきいては傳へ、おゝる前につたゑ

△三月廿四日(舊二月三十日)八時御咄し

こくげんすぎ、かみたるところのことでも、是一つところよふきけ、身の内なやむ處、一時たいもの處がわかりがたない、さあ〳〵いくゑ事情きくこもとき〳〵、さあ〳〵つ

んで〳〵まことたのしみ思へども、身のうち所もよかろふかもふ一日したらすつきりとすみきるも、これこそ十分せいでみがきでるで、十分せきまちかね、しんじつしらすせつなみ、刻限しらす是だん〳〵今まで尋も前にかんじんなる傳に、次々席にて十分止ごまる、何時なりと席にて尋ね、尋ねるに付、さあよふきゝわけ、わからんも席にて今迄所休息場、女供の皆よりよふて席にているのやで、またはやいて互にじゆぶんのこくげんはない、夫々のこゝろがけ、ごるごうりうけこれごふもよふしやんたのしみ深くこゆふは、人になるほごこゆふ、それよりじちよやでゆうてしまう

△三月二十五日(舊三月一日)御咄し

さあ〳〵一日身につき、三だんの芽ふく、治り置今すつきりかたずけ、すつきりもよきもふかしからん、ごふやしらんわからんものすつきりごいゆ事、今咄し筆につけをけ

△三月廿五日午前五時

さあ〳〵あちらこちら、つまんだやうなことを、きいてい

たぶんにはわからんで、これしつかりきゝわけねばわからん、神といふものは、なんぎさそふ、こまらさふといふ神はでてゐんで、今にはちまつたことでない、こゝまでほんになるほどと思つた日もあろふがな、それ國々から、さき〳〵までうけとりたるところもある、それゆゑわたすものがわたされなんだか、さん〳〵なさけなさ、ざんねんのなかの殘念とゆふ、いまに神が今にさがるでるとゆふたところが、しよちでけまい、もんかたのわからん處から、神がこのやしきにふせこんだ、さあこのもとをわかたばさあしらそふ、しよちがでけはしらそふう、しよふちがでけ

ねばそのまゝや、さあへんこうはごふじや、むりにごふせこわゆはん

△内のもの答いかにも承知致しましたと申上ぐれば神様より

さあ〳〵しつかりときゝわけ、いまゝでは大工といふてしごことをあちらへもてゆき、こちらへもていた、それではごふもしごと場だけよりでけぬ、そこで十年廿年の間にこゝろをうけとりた、その中にながひものもあり、みちかいものもある、こゝろのはたらきをみて、こゝろのつく

したるをうけとりであるから、やりたいものが、たくさんにありながら、いまゝでのしごと場では、わたしした處が今迄のじつこんの中であるゆゑに、心やすいあひだがらわたしたやふにをもふてあろふ、此の渡しものといふわ、天のあたゑで、それにくべつがある、この通りにうけとりてあるものがある、それをわたすには、ごふもいまの處のしごと場といふた事を消して、本席と定てわたそふをもゑごも、このままではざんねん〳〵、さあ〳〵本席と承知がでけたか〳〵さあ一たいしよちか

△答内の者いかにも本席と承知ある夫より

一寸たのみをくといふは、席とさだめたるとゆへども、今一時にごふせいとゆふでない、三人五人十人をなじといふ、席といふ、その内にあやにしきのそのうゑへ、きぬをきせたよふなものである、それからつたへるはなしもある

△明治二拾年三月日不明梶本松次郎様父上の身上願

唯口をかり、今とはないで、今處ではごこにもないで、よふこそあやしきとこでのがれ、たいもふの道であつたこれ

からごん〳〵喞し通してかゝれと、しよこふしよごうでも、貸物天然自然めん〳〵にまことさい定、實さい定、身の處心來てならん、なれごもめん〳〵兄弟、これはこふじや、神の指圖、神のうらみ事はすこしもない、そこで六ケ敷事はいわん、六ケ敷事せいことはいやせんで、わからん處わかるで、國々一人でもあつたらわかるで、こふいから見てもほぼわかる、まあそのこゝろあいて、定めてくれ、又内々なる處、親一つなんぼでも、こんと定、道は〳〵違うないで三子生三才のこゝろになつてあすはたのしみ、一つ定何にもない、三子おだやかにくらす、なによりそこでけつこふ〳〵、こふしていかねばならん、まあ〳〵三子三才こゝろなりて、三才の心になつてなにもいらん、きげんよふ遊んでけつこふ〳〵、こゝろしんばいないよふあらためかへ

△仝年仝月梶本松次郎様父上の願

さあ〳〵よふきゝわけねば、身の内の處なんでも〳〵身の處なんでもない、夫々處身障りごふいふ事に思ふ、大曾天然なる事ならごふにも、こふいふ事も、誠と一つ、積置ならそれをしらずしてこふしたら、早かろかだん〳〵道うづんでしまい、風呂敷に里五十年お此處に居やかるまい

皆々夫々に傳、咄通りちがわんで、めん〳〵處眼内咄し通り、世上から實の道、誠になるこふするは不都合なれども、めん〳〵しやんして、こふせにやならんとはゆはん、めん〳〵家内、神貸物實の承知なくば……三十年物なら十五年、咄通りきづかいない、神のいふ事目に見へん、神の言わるい事はゆわん、めん〳〵こゝろ定まらんからわからんで、神といふて尋るといふ事は前々咄してあるで、

△仝年仝月後梶本松次郎氏父上の御願

一つこゝろわれとわがでに我身をせめるで、あちらでほ

ほ、こちらでおほゝといふていたらよい、又なんでこふせにやならん思ひ、こゝろあちらでほゝこちらでほゝといふていたらよいのやで、一つのこゝろが身につきごこもわるいのやないで、病ひでもない、こゝろすみきればそのまゝなんにもむつかしい事はない、あちらでほゝ、こちらでほゝといふていたらよいのやで、内へかへりてこくとゆてきかせ

△仝年(舊三月一日)梶本父上様御障りに付願

みの内の處へ知らせかけたるは、年の病でこふなるか、ひ

ゐこみでこふなるか、こゝろの立をかへてくれるがよい
年の迫つてか時節の迫りて、追々ごふむならん、なんこけ
つこなるやな、よふこんきもつくしくれた、是よふ樂み愈
おれはこんな事してごふむならんとおもふな、よふきゝ
わけいつ〳〵迄けつこな、なんとゐらひ人といひ、人やな
こゆわれたのしみ、心つくすがよし、よふしつかりと聞分
幾重の尋もしてくれ

△仝年仝月仝梶本松次郎樣御子息國次郎樣身
上御障りに付御願

さあ治りしんになつて聞き、さあ〳〵一度二度順序いか
なる處、順序今一時なる處、小人々々さあ一寸たいそふ順
序わからんであろ、なんにも六ケ敷〳〵一條もおもへば
すみやか〳〵段々理々、よふしやんしてみよ、ごこにへだ
てない、たすけ一條理一つあやふき處、なにかのこころ、よ
く〳〵聞わけねばならん、なにかの事、一時わかる、何かの
何ケ年、一つ理わかる〳〵、なるならんではない、よふきゝ
てをけ、一時運ぶところ、一時あんしんをさまる、おさまら
ん順序、道くらす聞一つあんしん事情を運ぶ

△追て願宜敷内へ順序迄に下さる者梶本内順

序

尋をもつて理をさとす身のこころさつそくすみやか一寸順序見分け、聞分け、幾重かと一つかとならひ見にならん、是迄順序つたゑないだん〳〵その理、夫日々の理、一寸心得に是迄にゑんなき處、ゑんなき一つ定め、一つおさめ世界處、理を聞わけ、なにかの處、借物自由自在、めん〳〵一つこゝろ順々道さとり、よふきけならん、神はへだてはないで、しかと聞き分け

△押て願

さあ聞分、神とゆうへだてない、内々とも人間身の内貸物順序よふきゝわけ、世界のこころ幾何人、順序の理を見て聞分け、かゞみ屋敷、鏡ならどふいふ事もみなうつる、よき事あしき事うるるであろ、これはぜんしよ〳〵身にあらわれる、かゞみ如何なるこゝろ定、たんのふ〳〵こゝろ定めるならやれ〳〵たんのふなくてはうけとる所一つないで

△明治二拾年四月二十三日午後四時頃神様よ

りしつかりをさまりたこうけたまはり

このやしき四方しよめん、かゝみやしきである、きたいことをもても、きられんやしき来たものにいねこはゆわん、こんものにこいこはゆはん、このたびはあらいしたてたうへやで、よふこゝきかねばならん

さあちよこゆふておくで、

ねんをきるやふなことをきめるやないで、一月に三日又もごり、又九日これきいてまことをもをていればまことゝなるで

△明治二十一年七月一日御本席様の身上御障りに付御願

さあ〳〵なにをしらそふ〳〵一日も早くしらさにやなら、さあ〳〵一日も早く〳〵なにをしらそ、あちらもこちらも身のさわりなやむこころ、みのさわりこみわけどふいふ事も早くはやくしらさにやならん、ごをいふ事もなんでもかでもせんせんの處でにやならん、いつこん處へ尋ねにやならん、さあ〳〵一時ならんこころからたちこしきたる處、一寸世上の理にをされ、世上の處は一寸の道もふぢうやが〳〵まちてゐるものもある、早く〳〵十

分はこぶことなす事、理にはづれてある〳〵一寸ほそぼ
その道がゆるしてある處、ころつゞまちがふてある、一時
早く〳〵治めてしまへ、それがほそ〴〵みちでもやぶて
みよふかはやく〳〵せかいにはどこにやるばか、やうし
れんでな、ちよとほそ〴〵のみちでもつけたる處は、こん
どはなかくつよいで〳〵

△明治二拾一年七月二日御本席様御身上の御
障りに付御願

さあ〳〵にわかに〳〵、一寸しらしをこふ、身の處に一寸

こゝろゑんから、にはかにしらしをこふ、あちらにもこち
らにもざあとちよとわかつた、第一世界のみち、さわるか
らとふゆふりもわかる處、一寸でにやならん、第一世界の
處では、まああしがいたい、手がいたいといふた處があん
じもない、第一世界の處でわ、にわかに腹がくだるとゆゑ
ば、第一にわかにはやく〳〵、一寸いそぐ事、第一せいでは
ならん、まへ〳〵より世上にはいろ〳〵にさとる、第一の
處さとすには第一ひとつのりは、早く〳〵さとらにやな
らん、とをくのり一寸世界のり、神の理はさあ〳〵一時な
らん、ひとゝきのまも一時いそぐ〳〵處はいそがしいで

いそがしてもよい事をいそいでならん

△本部御地場ゑ引移しの御願押て

さあ〳〵たんのう、理をたづね〳〵、一つのりをさとす、世上のきやすみのりを、處をかへて一寸をさめた、世上には心やすみのり、地場には一寸りをおさめる、地場のりと世界の理とはころつと大きなちがい、世界で處をかへて、ほんぶ〳〵といふている、上もいふていれどもあちらにもほんぶといふていれど、なんにもかわらん、さあ〳〵こゝろ定めよ、なにかのところ一つところで、一寸ださにやな

らん、さあ〳〵一寸むつかしいであろふ、どんな道もあるしんたんこゝろすることの道があれば早く〳〵

△分教會許可し下さるか是迄本部東京市下谷區北稲荷町四拾二番地に設置有之處御地場ゑ引取事を御許下さるか押て御願

さあ〳〵これ〳〵、よふきゝわけ、ちいさいものは、めんめん壹人してできるものである、大きな事といふものは、一寸理をきいても、此理は大きなるものであるといふさしづしておく、いよ〳〵本部地場引事

△明治廿一年八月二日午後五時刻限の御咄し

さあ〳〵よのぎはほかのぎでないで、さあ〳〵ばんじ一つの事、事情あらためる、これしつかりきゝわけさあ〳〵日限の刻限、さあ〳〵日々のあつかい、なにかの處あつかい、さあ〳〵事情によつて尋るによつて、日々の刻限なにかの事情、刻限によつて一つあらためる、いくにんあるなかふかきのりをおさめよ、さあ〳〵尋一條からしらさにやならん、さあ〳〵一つの事はさあ〳〵、日々にかわる、なん名入かわる、一寸でこしいる、いつてに筆にかきとつて

日々のところふつごふの事ある、さあ〳〵たがい〳〵ちぎりむすんだりをもつて、ふかきりはこぶ、これまでは日々のはこぶ事、めん〳〵一名一人、あちらからたのむ、またあちらではなしあつて、第一日々のところをいく人、それ〳〵事情あつてきよふはめん〳〵のところはなんめいいくにん、いく名と、それよりもふかき處のこともつてはこぶ、又それ一寸一つの事情なれば、まあ〳〵めん〳〵一人だけの事情なれば、めん〳〵ふかき身の内のなやむり事情をさあ〳〵事情といふはなし一つのり、事情これきいてをけ、又めん〳〵ゑんだん、これ一つのり、事情めん〳〵

きかしてある、又一つさき〳〵のり、事情をわたすには一度二度三度、まづわたすには、又一つにはうかゞひ、一つひそかに〳〵一日の日にわたすものもある、又一つにはこふのふとういふわわたする事情、まだ〳〵をふく中の事情は、又かわるざわ〳〵した中ではならんしづかに〳〵さあ〳〵取次一人でしつかりわかる、又一つには取次一つ又一名しつかりと、さあ〳〵ふかきの事情といふは、さきにといて世界はたすけ一條、さあ〳〵尋ね一條のりは、一人日々のところ、さあ〳〵十分の理をさとしてあらいとつてから、じじよふあらばとふさんとはゆわん

△押てふかきの事情たづね

さあ〳〵一時はなししてをこで、さあ〳〵ぜん〳〵のところ、一つよぎなく一つのり、事情よぎなきふかきの事情とゆふ、一つの事情といふ、ふかきの事情といふは、たづね一條、べつだんせきたてたづね一條、事情ふかき事情と又々一つのふかき事情は、又々一度二度三度まで、かやしてはこぶ事情、又ふかきの理、事情も尋るからわたそといふ事情もきかしてをこふ

△明治二拾一年八月四日夜本席様身上の御指圖

さあ〳〵ちいさい事いふでないで、よをきいてをけ、此屋敷もと〳〵一つの理、きいておけ、ようきいておけ、さあ〳〵いかなる處、よふきけよ〳〵、ごふいふ事なにゆふやらしれん、なんともやしき所理すむもりなら、いるもり、やしきをつのりきけよ、だれがゆふこともをもうなよ、元一つの理はほんの屋敷のりをきゝわけよ、をもうなよ、なんごきごふいふいかなるしやんもせにやならん、人間のこゝろはいらんさあ人間ごゝろはすつきりいらん、日に一つのさしづもろう、世上にはこれたすけ十分々々、如何なる處きいてせかいにて、ごふでも神わ一つの道をつける、神一條いかなるみちもつける、ごふいふところいかなる道もきいておけ、はやく〳〵きゝとれ、いかなる事もきけ、ごをなるにもきかにやわからん〳〵

△明治二拾一年(舊二月十七日)御咄し

いかなる一つ事上、さあ〳〵これからそうじ、すつきりそうじしてしまう、かたづける道具もいる、ごふでもそうじ

してはたきてる、このそうじ人の道あらためなをす道具なをす、をさめる、ふきとる、そふじする、いつもそふじやそふじにかゝるなら、かど〳〵までそうじ、こも〳〵一寸どふいふ處はと處にみんなこゝろのそうじや、あとなるみちをあらため、またをさまる道具もいる、ながき事ではない、今まで一寸にはからん、一寸でふきとりわからん、これからこゝろ次第、いまゝでの道如何なるきゝわけ、又々の理一時見ゆる、どちらゐほうきなびくやら、まこと一つや理きゝわけねばならん、安心の道もある、ほそひみちもある、さあ〳〵みゐくるぜん〳〵寫してあるよふきゝわけしんじつまことは道のたより、しつかりさだめ心をおさめ、しつかりをさめ、これより一つの理きゝてをき、さだめたみちは只一つ定の道、さだめたこゝろいつまでもしつかりとふんばる、じつは是より一つのり、みちの理をとをす、しつかりこゝろさゞめ第一や

△明治二拾一年(舊三月廿六日)新五月六日御指圖

さあ〳〵尋一條の處しらす、さあ〳〵これまでながらくだん〳〵つたへて、はなしきいま一時一つしらす、ちや

んと一通り一つせかいの事情、ほそぼそ一寸しらすところ、まづ〳〵をゝきな道である、一つ諭しこくげん咄し、一時刻限々々一つはなしつたへてある、暫の處きかねばわかろまい、ききわけ道の道ならきく理一つ、みちであろふ世界その日それ〴〵いちじとをりにくい理をとをれば理がとをれるこそ、ながらくきゝとをりて世界はんぜんいくすぢ世界とをりよい理、きく理治る、神一條つけたる道をもての道わからん、世上みち世界のみち、いつたとをりぬくいみちとをりにくい、つれてとをりてある、世上どこまでとをりよい道わからん、一つの道ある、一つこれよ

り一つむつかしきこといはん、人しるしてなんでも二つの道、定理道、世上道た道神の人、みちほんにわかるまい、道がわかるといふ間、世上の道ではわすみやか道あぶなきことはない、理といふしゆりこやし、めい〳〵たちも一つ同じ道、夫々よふきわけ、わからん新道、古道あるしゆりみちわ、一寸わからん苅取たらしまい、その理もあろふ、さあ〳〵世界一つたより、世界の道しゆりこやし道わかる分道たより人間道、人間みればわからん道が便りあり

△明治二拾一年五月九日(舊三月廿九日)上田奈

良とめ身上障りに付御願

さあ〳〵まづ〳〵たづねる所、身上にてさあ〳〵、まだ〳〵すみやかならん、さあ〳〵ごふいふ處からどんな道がつくやら。遠く近くにへだてない、なんごきごふゆふみちがつくやらしれんで、又一つこゝろにしんじる事はいらん〳〵、ごふでも〳〵心にあんじがでてならん〳〵、あんじでてはをそくなつてならん

さあ〳〵一事はなしてをかねばならん、さあ〳〵あんじる道もあろふ、さあ日々の日もごうであろふ、ごをいふ道もこしてきたであろう、さあ〳〵あちらへもつれ、こちらへもつれてている處、十分の理や、さあ〳〵これからは、しやんもつかんさだまらんといふたは、今の事やない、今迄の事や、さあ〳〵これからは、内々みな〳〵ちやんと心定めて、ごをくの事ではない、ごうからん内にすみやかな道である

△明治二拾一年六月八日御指圖

さあ〳〵なにもしらさにやならん、さあ〳〵ごふいふ事も一日も早くしらさにやならん、如何なる事もきゝわけみちすがらきゝわけ、なるならんなんでも皆それぞれで

にやならん、よふになつてきた、ごふいふ事も早くしらさにやならん、一つの事情出にやならん、みのしらせぜんにきかせてある、みんな出るさわり入込、こゝろのみのさわり、一つの初り、あぶなき理、神こ上といふわ、ふたがあきにくい、一寸見ていよほそ〳〵のながらくの道、みんなあつまる世界のみちにをされるからほそぼそ〳〵みちゆるしたふりかわるところ、りこかゑる、めゑ〳〵神一條の名あげ、一つのほそ〳〵の道はやく理をはやくなをせ早く治めをく、しまゑ一つわやぶんててまを如何なる事一つの一條はやくこふてやろふか、ふんでみよふかあちらゑ

も早く、こちらへも早くほそい道でも一寸つけたか道はかたいで早々治め

△明治廿一年六月二十一日御指圖

さあ〳〵〳〵早くきけ〳〵といふていそぐところ早く〳〵〳〵ごふいふ事いそぐ、これまで世界なにぶんいふてわからす、いくゑつたへ、同じ理、なんべん同じこと やこ、ごうでもこふでもきくも、一日の日、その日くるやしれんで、咄しきゝのがし、また〳〵つきのばしないよふ、よるもひるもわからん、なんごきこもしれん、世界中こゝろ

はこぶ、第一はやくいそぐ、つとめ一條これまでつたへ一つ二つといふ、一寸にてあら〳〵のところ、しらせおく、本部や仮本部やこれでくがのがれ、はこぶはこばす是であんしん、なにもあんしんなりでならん、どふいふ處、身のところ、一つの印まあ〳〵いそぐで、身上一つの道、早くのみち、みゑてくる、世界々々のこころ、つなぐ〳〵一つ神のはなし、一つの理、神のはなし、一つの理をきゝて、道のわからん、あちらではこぶや、何もならん、何ほどざんねんすつきりその日のこくげんとゆうわそこでしらす

△明治二拾一年七月三日御咄し

さあ〳〵身上に一つの事情、如何なる事、たづねるさあ〳〵きくや〳〵はやく〳〵さあ〳〵はなし一つはやく〳〵のべにやならん、さあ〳〵早く〳〵まちかねた〳〵さあ〳〵あちらへもこちらへもとゆうて、こんとそろはん、いまたいていそろふた、一ちなにかの事、いそいで〳〵なにがせかいのぢじよ、はこばにやならん、さあ〳〵きよふはゑらい事、をいふて、一つさあ〳〵ぢばの一の理、はやく〳〵さあ〳〵一寸りをはじめよふ、なにもしやんはいらん、まづ〳〵ぜん〳〵に

きいた、かんろふだいの一條、どうでもこふでも〳〵
ゆわねばならん〳〵〳〵〳〵世界の事情はぢゆぶんで
あろふ、まづ〳〵今迄の道、どふでも〳〵、さあ〳〵一寸初
めだしたで、こはいことをもゐば、こわいなんにもあぶな
きはもふない、もふぢゆうぶんこくげんがきたことをもゐ
ばすみやかな道こふれるで、さあ〳〵元々きけば女壹人
がはじまりや、なか〳〵の道である、さあ〳〵又々の所で
はかんろふだい一て、かぐらつとめやはじめ、今迄の道一
寸だいでけた日もあろふ、さあ〳〵なんぼ本部がでけた
こて、なんにもわからん、さあ〳〵こゝろさだめよ、なにか

の處、一つの所で、一寸ださにやならん、さあ〳〵一寸はむ
つかしであろふ、どんな道もある、しんたん心にまことの
道があれば、はやく〳〵〳〵かかれよ

△分教所を御ゆるし下さるか又は本部を地場
へ引事を御許下さるかと押て御願ひ候へば
さあ〳〵これ〳〵よふきゝわけ、ちいさきものはめん〳〵
壹人してでけるものである、をふきな事というものは、一
寸りをきいても、此りはをふきになるものであるこゆう
さしづしてをこふ

△鳴物方に出る人に付て伺ひ

さあ〳〵〳〵尋る處々、事情に事情もつて尋る所、なりもの一條の處、まづ〳〵此迄の所、さあ〳〵まづ〳〵なりものののりに是迄の所、ぜん〳〵一つの理は、さあ〳〵ぜんじ一つの身上、さわりあつては、なりものゝりがわかるまい、さあ〳〵せん一つのなりものの理は、あわせたる處々、さあ〳〵なりものゝあうあわん、世界でいふ事であるさあ〳〵これ迄に合せたる處、さあ〳〵元々一つのりにおさめたる處、さあ〳〵一日の日ならば、さあ〳〵いつ〳〵まで、もの道である、なれど世界をおふぼふの一日の日なれば、どうそさあ〳〵あと〳〵の理とあれば、さあ〳〵身上に一つの理がある、事情ある、心にまことあれば、さあさあ世界の理と一日ひの事ならば、さあ〳〵どうしよ

△明治二拾一年八月三十日永尾たつゑ身の障りに付御願

さあ〳〵〳〵尋る處々、さあ〳〵小人〳〵〳〵といふことて、いかな處事情のある處の理をききわけ〳〵、さあ〳〵〳〵小人〳〵〳〵まつ處の理もあろふ、まつた理とあろふ、さあ〳〵小人事情尋るから、さあ〳〵小人もつくる處

さあ〳〵元々のいんねん、さあ〳〵小人とふく處、日々の處に、地塲一つに事情は、さあ〳〵わかき處のさあ〳〵母の母、三代さきのはゝ

△明治二拾一年月日不明永尾辰憲身の障り御願

さあ〳〵小人々々小人こいらいこゝろあれども、なにしてもしよふのなきもの、なんにもよのぎほかぎはあろうまい、おもふまい、さあこの子はよなきするとおもふ、いちやの事ならよけれど、まだいかん、めん〳〵たづねにやならん〳〵、めん〳〵もおふくの中、はこぶ處、今一つの處、みなよせてある。めん〳〵せいてはいかん、ながくのこゝろもちで、だんじたがいのこゝろもちていけば、何一つのほこりもない、このみちてんねんしぜんの道やとおもへ、本年一つのりをみる、めん〳〵ごふしてこふしてと、心におもわぬよふ、てんねんしぜんの道やとおもふて、こゝろにおさめば、小人身の處もすつきりおさまる

△明治二拾一年九月二日御伺の願

さあ〳〵一寸になしてをこふ、さあ〳〵まづはたすけ

一條のために、一つといふは、一つのこふのふとゆうわ、めゑ〳〵の心の事やで、たかいひくいのりはないで、さづけもろふたら、じゆうぶんとゆうてもならん、さあ〳〵たかいひくいのりはない、ただ一つはこころ一つ、いつて一つにたかいひくいのりはない、かるきおもきのりはわたさん、たゞ一つ心の理に依てわたしおこふ

さあ〳〵心うつとしてはどふむならん、うつとしい日にはなにをすれどもすみやかなることはでけん、さあ〳〵せいてんの日の心もつて、何事もすればせい天といふ、もものはなにをすれどもすみやかでけるものである、せかい中くもりなければきもはれる、すみやかなるものである

めん〳〵も心よりこうのふとゆふりをなければならん

晴天の如きのこゝろ、さあ〳〵しゆん〳〵の道のりをはこんで、りをきゝわけて、一度二度かやす、りの事、さあ〳〵とふくの所一度か、なんどにもむかう、心一つのりによつて、たがい〳〵のまことの心が、たすけのこうのうの理である

△明治二拾一年九月十七日守田儀之助二十五歳上田奈良留二十三歳縁談御願

さあ〳〵ゑんだん一條は、みな〳〵こゝろきつと取次に

まかしたる處、みんな事情はすつきりときゝわけた事なら、さあ〳〵みんなわが子こおもうやろふ、さあ〳〵この理をききわけねばならん、みな此事情わ壹人々々の身上のかしものの、のりをわかる〳〵、さあ〳〵みんな聞しおこなん名あるこいへごも、みんな此壹つの事情こしらしを

こ

△明治二拾壹年九月十八日永尾芳枝目のさわり御願

さあ〳〵身上々々からたづねる〳〵、なにかの事もきゝわけねばならん、十ぶん〳〵のこころいんねんの事情がわからん、さあ〳〵身上に不足あれば、これわかるやろ、さあ〳〵かみさん〳〵こおもうやろ、神はなんにも身をいためはせんで、さあ〳〵めん〳〵こゝろからいたむのやでめん〳〵の親のこゝろにそむけば、ゆうめいの神をそむき〳〵て、まるそむきこなつてあるのやで、めん〳〵の親がゆふ事にはわるい事ゆふをやはあろうまい、身上に不足あればこの理をさとしてやつてくれるよふ

△明治二拾一年九月三十日御祭り神の願

さあ〳〵たづねだす〳〵なによの事もよふしやんして
さあ〳〵いそぐであろふ、なれども神がこくげんのはな
し、ちよとでたのや、さあ〳〵いまゝでなが〳〵のところ
よりでけたところや、さあ〳〵これまでのみち、ごふもし
のぐにしのげんから、ちよとのみちをゆるしたところさ
あ〳〵ながの〳〵のみち、五十年の道をかへて、まただいを
かへ、又一つはじめたし、このりをよふきゝわけてくれね
ばならん、さあ〳〵あちらではちよつとあかい、こちらで
はあかい、さあ〳〵もふじゆぶんのところは、八分までも
きたる、ところもふ一二だんのところ、また〳〵こくげん

のはしからはじめる〳〵

△明治二拾一年九月三十日御本席様御障りに
付願

さあ〳〵〳〵〳〵ん〳〵、さあ〳〵〳〵〳〵さあ
〳〵ちよと〳〵、さあ〳〵はじめかけるで、みんなそろふ
て始めかけるで、ゆわいでもわかるやろふ、さあ〳〵なに
いそぐ〳〵、たつた一つのだいをいそぐ〳〵、きゝわける
ならさあ〳〵はやくだしかけ〳〵さあ〳〵をやざとが
わかりだした〳〵、さあ〳〵もと〳〵一つのあて〳〵ま

たへんな事をゆいかけるごをもふなよ、さあ〳〵みんな〳〵めん〳〵、さあ〳〵せかいでちよこわかりかけた〳〵せかいもあちらでは、ふん〳〵こちらでははん〳〵ごゆうている、さあ〳〵めん〳〵だん〳〵こしたるから、きいたはなしはわかる事もある、わからん事もある、さあ〳〵たづねからこくげんでしらす、さあ〳〵いそぐであろふせくであろふ、さあ〳〵せゑてはいかん、さあ〳〵みちわかれば、早くこふろふ、これがせかいみちや、神の道は今迄の道、なが〳〵のみちである、さあ〳〵せかいの事じよのみのりじよと、ふたつひとつにむねにをさめ、さあ〳〵ま

た〳〵こくげんでしらす、世上のじじよは、いまに一つもどこにもある、いそがいでもよい〳〵、神一條の道はどふでもつけにやならん、つけさゝにやならん〳〵、さあ〳〵みんなそろふて日々にこゝろがいさめば、神もいさむ、みんなそろふてはこぶじじよ

△押して御願

さあ〳〵せかいの理、せかいのりをもつて一つをさめてあるところ、世界の理をもつてすれば、どふせゑともこふせゑともゆわんさしづせん

△明治二拾一年十月十日守田半兵衛わけのわ
からんさわり身がしびれて腹いたみじゆよ
かなはず

さあ〳〵いくへのはなしをきく〳〵、さあ〳〵身の
所心ゑん身の處に不足、なにかの處もきくみる、さあ〳〵
日々の處につくす事も受取りている〳〵、道からみちな
ればなんにもあんじる事もいらん、さあ〳〵これだけの
荷もてば、なんにもあんじる事はないといふて、世界の道
さあ〳〵重荷をもてば、こちゆでやすまんならんし、かる

い荷をもてば、すふと〳〵でゆける〳〵さあ〳〵へん
なはなしをきいた、さあ〳〵なんにもこゝろにかける事
はない、おもき荷は一寸もたんやふにして、いつまでもい
つまでも〳〵つゞくりがある、其こゝろへでさとしてく
れるよふ

△明治二拾一年十一月一日午後九時

さあ〳〵〳〵めづらしい事ゆいかけるさあ〳〵〳〵こ
れ〳〵〳〵秋をあいづに、是迄にだん〳〵にゆうてある
秋をあいづにめへかけるで、さあ〳〵〳〵古いはなしや

いつの事やと思たであろ、秋をあいづに是迄の咄しやで
だん〳〵初めかけ、年が明けたらいろ〳〵や、年が明けた
らいつまでも始めあれば、いつ迄も年明けたら一日の理
がある、一日の日とゆうて、前にも一つのはなし、一つの日
はいつの一日の日にもわからん、年を明けたら一つ日を
さめるにも此日始めるも、此日いつの事ともわからん、一
日の日始めかける、一日の日にしまひたる、此日をわかろ
まい、いつまでもたのしみや〳〵〳〵とゆてきた處、長い
はずや〳〵、たつた一つの處より、だん〳〵始めかけ十分
年間立ての始めかけ、年が明いたら、一日の日かあると咄

して置、咄しかけたら一日の日がある、いつ〳〵の道の長
い道のたのしみや、深い一つの理をきかそ、一寸一つの咄
しかけ、一寸一つの咄しかけ

△明治二拾一年十一月二日(舊十月廿九日)御本
席様御身の障りに付御願

さあ〳〵はやくたづねてくれ〳〵、だん〳〵これまでい
くへにもはなしつたゑてある、さあ〳〵あちらやこちら
やとゆうさわりや、さわりやとゆふて、たづねにくる、たづ
ねていればきりはない、よによを續ぎ、日にひをついでも

どんならんはなしつたへて、日々ごりきめにやならん、日々のはたらき、まあちよと一ツのはなしつたへ、みのさわり尋るまでやない、いつまでもみのさわりぐらいたづねるでない、ところ〳〵に理をわたしたるところもある、身のさわりやをほくの中の一人々々、よくしやんしてみよそこでちよと一両日みのさわりつく、なんぼ日々ごをしたかてつゞかせぬみのさわりと、はなしいちじよ、しやんしてみよ、十日三十日のことでは、でけよまい、ごりつぎや〳〵、もと〳〵をんなじことや、なんぼきかしてもをなじことや、これからは此のはなしごふりにするは神の道やごりつぎのものにみなしこんである、みのさわりはなしするまでやない、このみちよふきゝわけ、きいてきゝのがしちよとして、またをまいも〳〵ともとのごほりや、はやくにまちがう〳〵、なにかのところ、よふきゝわけくれねばわからん

△明治二拾一年十一月五日午前八時御咄し

さあ〳〵しつかりときゝわけ〳〵、ついでをもちてきかすところ、しつかりきゝわけ、にち〳〵ごりつぎよふきゝわけ、こをのを一つわたしてある〳〵、をほくのなか〳〵

みんなそろふてこゝろ定め、日々よりて、どんなこゝろあるたづねてみよあちらになんめ〳〵、日々じつをきかして、實をさだめてりををさめてかゝる、たがいのりにながくをさまるわすくない、その日〳〵の理をみてこをのをわたしてある、日々のこりつぎや〳〵、せわしい〳〵こりしまれ〳〵こりきめあらためて、ふるきのこころ見てりをおさめたねをまき〳〵年々のりをもちて、ふるきたねまきて、しゆりなしのまきながし〳〵、まきながしたるところ、しゆうり〳〵、じゆぶんの理を聞し、はなしをつたへりをきかし、これまで、よほどのりもをさめたものもある

これからふるきの道、一二三と、このりをよをきゝわけ、きめしつかりときめねば、人間のぎりはいらんと、にんげんのぎりをもへば、かみのみちのりをかくここのりをよふきゝわけてをけ

△明治二拾一年十一月七日御伺

さあ〳〵〳〵はんじ一ツのだんじ〳〵、さあ〳〵こをくのこころ〳〵のなかをと、さあ〳〵ふるき〳〵こゆうたねが、せかいにあるちよこりをきいてでゝくる、さあ〳〵ふるき一ツのまきながしこゆふたねがある〳〵さあ〳〵

ふるき種のしゆりしだいに、みな〳〵 また〳〵 これ一ツ
のりがある一ときさかんとゆうりがある、このりがある
このり一ときさかんとゆふりが、ごりつぎこのりをさあ
〳〵 一名一人でたづねるものには、日々のこころとく
あんしんさする日々だい一のとりつぎがある、をゝくの
なかのきもそだつるもある、そだたぬもある、さあ〳〵 ぜ
ん〳〵に一ついけんのために、一つさとしてある、又これ
までいけんとゆふは、まづ〳〵 これからさきは、たいせつ
〳〵にしていまゝでのこころは、いけんのためにさとし
たるところ〳〵

△明治二拾一年十一月九日朝九時(舊十月六日)

上田奈良とめをこりに付御願

さあ〳〵 たづねるところ〳〵、ゑんだん一條といふもの
は、理一つがわかる〳〵、さあ〳〵 ゑんだん一條といふも
のは、これよふきかねばわからん、こゝろ一ツはなしこい
ふはぜん〳〵、に、ぜん〳〵にうまれかはりも、さとしたる
ところ〳〵、さあ〳〵 ちよとりがさあ〳〵 しばらくの處
々、身上一ツにはなんにも不足ないさあ〳〵 しばらくさ
あ〳〵 めん〳〵 あちらへいて、めん〳〵 こゝろにひとつ

いかんといふ心、いかんさあ〳〵まあ〳〵しばらくは、そのままにしてなんともなくば、なんにもわからん〳〵、いつ〳〵までもしやんはつくまい、さあ〳〵めん〳〵一ツの心も定まるまい、また一ツは神一條の道は、めん〳〵もせくやない〳〵、めん〳〵も神の道もわかろふまい〳〵、一年たてばひとつわかる、また一年たてばまたわかるわかる、さあ〳〵めん〳〵もなにをしたのやなとゆう、さあ〳〵めん〳〵のうちもをさまり〳〵、又これからちよとしばらくは、あすばせさあ〳〵さあ〳〵しばらくの間あすびにいてこふか〳〵、又一ツしまりて一ツのり、さあ〳〵

しばらくの處はぜん〳〵に、ひとつさとしてある、こゝろのりををさめるとさとしてある、ところ〳〵さあ〳〵ゑんだん〳〵はじゆうぶんのゑんだんである、さあ〳〵いつ〳〵までも〳〵こゝろ一ツの理である

△仝時に上田奈良糸共に大阪へ付添暇の願

さあ〳〵〳〵尋るところ〳〵〳〵、さあ〳〵尋る處々ちよとのきやすみ〳〵、せかいのところ〳〵あちらはあすびや〳〵、さあ〳〵ながらゑて〳〵、一日二日の間はあちらへちよと、こちらへちよとながらゑてやない、さあ〳〵

これをよふきいてをかねばならん〳〵、身上にふそくあれば、ごをこいもいくやない〳〵〳〵

△明治二拾一年十一月十一日午後二時三十分

刻限の御諭し

さあ〳〵こくげんを以て咄しかける〳〵〳〵、さあ〳〵一つ二つ〳〵さあ〳〵咄し〳〵こゆふ事、さあ〳〵今迄ど云ふ物は長い間どゆふ物は、どんなことも皆どんな日も有た、どんな事も有た、さあ〳〵國々迄もさあ〳〵一刻のはなしまちかね、世界中さあ〳〵どんな事もまちごふ

〳〵〳〵、どふでもこふでもまちかね、さあ〳〵年限まちかね、人間こゝろまちごふてしもた、よぎなき道を通り、めん〳〵ぜん〳〵一名二名ゆうものは、さあ〳〵ざんねんどゆうまでや、さあ〳〵是迄はざんねん〳〵〳〵こゆふて通つた、さあ〳〵咄しはつたゑてくれと、ざんねん〳〵〳〵こゆふて通つた處、百十五才ときいた事も有たが、九十年でふそく〳〵こゆうている、早く見にやならんぞんめいぢゆぶん、いかなる一ツ、ざんねん〳〵〳〵、さあ〳〵ざんねん〳〵〳〵、はやくきゝこれ、いづれならんで、あろぞんめいの道は、さあ〳〵せかいはどんなことも有たせ

かいの處ごんなかたきのものもでき〳〵、一ツのみち、かたきばかしやない、よろこぶものがあるので、かたきができた、さあ〳〵一ツの道、こふのふのものみるのも道かたきと見るのも心すてゝくれねばならん、一ツのりはわすれてくれな〳〵、刻限こゆうまでのはなし、一ツのりはわすれてくれよ〳〵、こくげんこゆうまでの咄し一ツのりを聞ばぜんに一ツのはなししてくれ、さあ〳〵わすれはしよまい〳〵、ながらへての年限、行年々々さあ〳〵わすれてはしよまい、かんなんくろふ道を通してある、又々はなしをする、ねんげんのみちみるしやんし

てくれたのむ、一ちありながらへて、理をおもへ、ながらへて一ツのみちをこふるはなしきく一ツのりがわかりみなわかりない、みな一じ一つのりはじめかけ、一年前のりをうしのふてしもふたような日もあつた、理と理とせまる、いかなるものもあろふまい〳〵、をもては大工や、うらはかじや、このりきゝわけてくれねばならん〳〵、ながらへてのみちのり、さあ〳〵一ツのりをたのしめば、一ツの理をさあ〳〵たつた一ツのりを一年あとには一ツの理をわすれてしもうたよふなものや、又たつた一ツのりがわすれられん〳〵、このようはじめ一ツになつたらたい

そうおもへば、どんな事もさからわれよまい、をやとみれ
ばどんな事も一つむけよまい〳〵、又りをもつてはなし
かけ

△明治貳拾壹年拾壹月拾壹日御願開會處に付
御一條

さあ〳〵〳〵かきされ〳〵〳〵、
さあ〳〵いかなるこころのせきをたづねる〳〵、さあ〳〵
いかなるこころ、ちよとはじめやで〳〵、さあ〳〵ちよと
のはじめとゆふものは、さあ〳〵やくそくはしてあるな

れども、ようがでける〳〵、ちよといてくれ〳〵〳〵さあ
〳〵せかいなみではちよとようがでける〳〵〳〵さあ
〳〵こゝろのあんしんして、それこゝろのあんしんでけ
れば、さあ〳〵やしきせばい〳〵、さあ〳〵ちよと始めと
いふものは、ふわ〳〵するよふなものである、さあ〳〵〳〵
〳〵たいそ〳〵事は、一日二日三日たいそうな事は、一日
のひいではをさまるまい〳〵、さあ〳〵みな〳〵〳〵め
ん〳〵にこゝろにもつてゆふ、さあ〳〵みあ〳〵めん〳〵
のこゝろのりをおさめて、みな〳〵もと〳〵一ツのをや
がをさめたりをめん〳〵に、こゝろのりをもふだけよか

ありはせん、さあ〳〵いつ〳〵までも〳〵〳〵のみち、さあ〳〵なにがごうや、こうや、なんにもゆやせんで、さあ〳〵もと〳〵神がゆうたみちだけのことは、さあ〳〵ぜん〳〵世界の處はをさまらん、さあ〳〵いまいちゞにでけん〳〵ならんからなにもいまぢいとや、さあ〳〵ごふでも〳〵いつもとふりたなんにもあんぢる事はないて、ごうでも〳〵をさまる、さあ〳〵せかいの處をさまるよふにして

さあ〳〵、どんなりも始めかけてきたるところのりを、おもふてみよ〳〵さあ〳〵せかいのほうりつやとゆうているけれども、なんごきかわりてくるやらしれはせんで

さあ〳〵みな〳〵よりよふて、さあ〳〵みななにごともよるからはじまり、さあ〳〵なにごともよるから〳〵〳〵

△第二甘露臺のひながたの願

さあ〳〵甘露臺いちじよ、これもさあ〳〵いまゝでに世界のところにはをぼれてある、さあ〳〵いまゝでに一二とゆうひながた〳〵さあ〳〵ひながたはひながた、さあ〳〵たづねたらりをさとす、さとしたらたいそうになる〳〵、さあ〳〵ひながたはひながたゞけのことだけ、さあ〳〵たいそうなことを、りをさとしたところが、ふん〳〵

こいふばかり、たいそふなことすれば、こゝろうつこしい
よふなものや、さあ〳〵一日二日三日さあ〳〵あつさり
こ〳〵〳〵

△第三音樂の願

さあ〳〵〳〵一日二日三日、さあ〳〵事情一ツの事情、さ
あ〳〵ばんじつこめを定めた、ことがでければよい、でけ
がたないさだめたところがでけまい〳〵さあ〳〵さし
づしたところが、でけん〳〵ところのこゝろこゝろを
うや〳〵さあ〳〵あつさりこ〳〵〳〵、あゝふん〳〵〳〵

さあ〳〵さだめたところがでけんこころ、さあ〳〵こと
しやでけん〳〵、なんにもでけんやない〳〵〳〵、もこ〳〵
五十年のこころよりのりをみよ、日々でけてきてあるの
やで、さあ〳〵まだせかいもほゞうのこころ〳〵、さあ〳〵
かみいちじよのみちこゆうは、めん〳〵こゝろにりをお
さめ、せかいわ〳〵せかいのりをおさめへ

△このり一ツひかへ
なるほどこいふ一ツのりこは、まことのこゝろのり
がなるほどこゆうりである。

△また一ツのり

つねのまことゝゆうこゝろのあれば、そのばでてん
りがすぐにうけとる、すぐにかやす〳〵、ぢゆうよぢ
ざいわめん〳〵の日々とふるつねにあるのやで

△明治貳拾壹年拾壹月貳拾壹日舊拾月拾八日）

三日の勤め事の願

さあ〳〵ごふせこふせわゆわん〳〵、
さあ〳〵をふぼう〳〵せかひはをふほうにして、さあ〳〵
ごふせこうせはゆわん〳〵、かみいち條のみちわ、もふ一

だん二だんのりがある〳〵、さあ〳〵しばらくこゆゑば
ながいよふにもをもうているなれども、さあ〳〵あとは
はやいで〳〵〳〵

△つゞいてちよとをきかせくださる

さあ〳〵むつかしよふにあつて、いまゝではごふゆうこ
こもわからなんだ、さあ〳〵ごふゆうこともみな〳〵す
るで〳〵だん〳〵みちもみなしてみせるで、さあ〳〵こ
れからさきのみちはゝやいで〳〵〳〵

△明治貳拾壹年拾壹月貳拾參日(舊拾月貳拾日)
の午後九時刻限御咄し

さあ〳〵〳〵しゆん〳〵のこくげん、しゆん〳〵のこくげん〳〵、さあ〳〵〳〵〳〵みな〳〵、きいてをけ〳〵きいてをかねばわからん、きいたはなしはでたでであろふでたであろふ、みたであろふ、又々きいてをけ、みな〳〵一つ〳〵のりもわかるであらふ、いまのこころせかい一ツの道世界一ツのみち、いまのこころ、ちよとみちである、いちごのはなしゝよがい一ツのり、めづらしい一ツのだい〳〵はなしいまのいまではあろうまい、ながらへてつれてこふつた一つのこころ、ねんげんある〳〵、ながらへて一ツのみちである、この、こころのりを一ツしやんせ、このこころわかき〳〵ふるきもの一つのり、いか〳〵まんぞく一ツのりいもあろふ〳〵、たんの一ツのこゝろもをさめにやなろふまい、たれがいふやない〳〵、このこころ一ツからや〳〵よふきわゝけ、いまのみちふるきみちから、いまの道、さとりちがへは、せひわない〳〵、よふをもうて一ツの事情〳〵

△明治貳拾壹年拾貳月拾日午後四時刻限咄し

御本席様身上御障りに付

さあ〳〵身上の事情尋る所、さあ〳〵一日の日影のかゝり、半分たてばさわり、よぎなきほかではしらさんで〳〵一日の日の處、一ツ〳〵の理をしらす、せきといふ、これまでのせきとゆふ、一ツのりはあらためにやなろまい〳〵さあ〳〵あらためる〳〵、まづ〳〵なんどきこくげんとはゆわん、これからはよる〳〵の一つの刻限、いかなる事情の理も皆しらず〳〵、事情にはすつきりとあらためる で〳〵、一年のしやんとゆうは、かゝり一ツのしやん、これまでのみちはむつかしいみちであつたであろ、さあ〳〵

これまでの事情はまづ〳〵刻限がまだ早い〳〵とゆうていたなれど、いつ〳〵までもとゆうりをもつていかなるもしつかりときいてをかねばならん〳〵、さあ〳〵一日のひがある〳〵、しらしてあるとはゆへど、いつにあるとはをもうなよ〳〵、はなしするでかける〳〵、さあ〳〵いつの事ともわかろまい〳〵一日のひとゆうたらさあ〳〵いつのことゝもわかろまい〳〵、一日のひとゆふたら、さあ〳〵あと〳〵の理はさあ〳〵よる〳〵の刻限をもつてしらす〳〵、さあ〳〵一寸かゝりもふこれだけの道がついてあれば、あと一ツの處ははやく〳〵おさ

めにやならんし、さあ〳〵あこはよる〳〵のこくげんにてしらす〳〵

△明治貳拾壹年拾貳月拾八日大阪守田氏より歸會本部門内へ入るや否や目まいして頭痛せしに付其翌晩御願

さあ〳〵ゆわずかたらずして、そのばでおさまればすみやか、なれどもよふきいておけ、身上に事情あるから尋るたづねるからりをきかす、たづねんからりがおくれる、このりをよふきいておかねばならん

△明治貳拾壹年拾貳月廿日午前一時半咄し

さあ〳〵〳〵〳〵また〳〵はなしかける〳〵〳〵さあ〳〵〳〵はなしかける、さあ〳〵こゝろしづまつていつの〳〵今の〳〵、さあ〳〵りゆぎ〳〵、さあなにのりゆぎ〳〵〳〵さあ〳〵せんぐもつてごふいふ事もはなしかける〳〵〳〵、ごふいふ事を咄しかける〳〵さあ〳〵世界中の理おほきな事を、りをしらそ〳〵〳〵ごこの〳〵ごこにといふ理がある、ごふいふ事もしらそ〳〵これまでといふは、いづれのくにならく〳〵さあ〳〵よふよ

ふのみちなら、ほんになる程こいふ世界、何れの國の事ならごういふ事もしらそ〳〵〳〵さあ〳〵國の中のその中や、さあ〳〵〳〵いくゑの中、その中わかるものも有、わからんものもある、おほくの理をしらす〳〵〳〵、いつのこやと思ふなよ、ながらくの年限なれば、だいくつをしたであろふ、ながらくの中にもしやん一つの理をみよ、さあ〳〵〳〵國の爲やこいふてつくすものある、ごふいふ事も思ふてつくすものもある、さあ〳〵〳〵あけるが早いか、見るか早いか、世界の一ツの理をしらす、今迄で今こいふ今、その早い事をみよ、さあ〳〵今迄はさあ〳〵一日

の日が有る〳〵こしらしたる處、しあげたらゑらいせきがある、こすにこせんこゆふゑらいせきは、こすにこせんのそのせきは、みんなのこゝろで、みな一ツによせてこすさあ〳〵あこもいくさきの事もいう、さあ〳〵年があけだ、いつの月こもこれしれん〳〵〳〵、年があけたら一日の日がある〳〵、さあ〳〵いかなるここもみなよせる〳〵〳〵、さあ〳〵やしきがせばい〳〵〳〵、ひろげよやないか〳〵〳〵あちらへさしかけ、こちらへさしかけ〳〵〳〵〳〵いくゑの道やあちらの道をひろげ、こちらの道をひろげいつ〳〵までもたのしみ一つの理をみよこ、しあけ

るをまちかね〳〵たあた一ツの理をしらす〳〵

△又あとへ第一

さあ〳〵咄し〳〵、さあ〳〵ためた一事の咄し〳〵さあ〳〵一事咄しゝておかねばならん〳〵どん〳〵日々の處〳〵〳〵さあ〳〵せく處〳〵、さあ〳〵せかいからせくごころ、これまではをふくの處、あちらからもこちらからもごふでもはなし一ツの理をあつかいきたる一日のひま、何人月々みんなあつかひきたる所、かはり年々かわり、さあ〳〵月々かわる年々かわる、これはなし〳〵

ぞんめい中には〳〵、日々いそぐ所はなし〳〵、さあ〳〵はなし〳〵〳〵しごとば〳〵〳〵こいふて、どうでも〳〵ねんげんとをりきたる處、今一時ごふなろふが、こふなろふがと思た日もあつた、みんな一ごによせてうん〳〵〳〵〳〵〳〵と云た日もある、それでしんじつ〳〵〳〵〳〵といふて、一ツの理をさあ〳〵〳〵うたがいもあろふまい〳〵、さあ〳〵年限〳〵もこれにふそくもこれあろふまい〳〵、うたがいもあろまい〳〵、中にはんぶん〳〵こゆふものもある、せき〳〵〳〵こゆふ咄しかけるもせんしん、實さだめるもせき、人間心もあろまい、人間心の道もあろふ

まい、こゝろのりと年限のりと、一ツのりわかる、いづれのはなしもつたへ、一ツのり、せかいのりにもなんでやろふとゆふなるほど、天然自然の理とゆふ、今の所はけるこやといふ、まあ一ツの咄し、さあ〳〵〳〵一ツのせきときいて、一ツのせき、ふん〳〵さあ〳〵一日のせきとなをりて、こゝろたづねばさあ〳〵おほくでてくる處、世界の所よりでてくる處に咄しかけ、せん〴〵あちらになんにん〳〵、さあ〳〵こちらから何る人〳〵〳〵でてくる處、また日々の處、あつかう所、みわけきゝわけて、あつこうてくれるよふ、年限はゆわん、こゝろ一ツのり、さあ〳〵

々まん人くれば萬人の心、日々の所ををくのり、さとしにくい〳〵萬人の中の理、つくいきひくいき、これをいくるのり、よふきゝわけ、日の處聞分〳〵〳〵、日々取次の理、咄しのり、月日一ツのりをもつて、きれいな道やにごりたものはるらいみち、すんたものは細い〳〵みち、ただひくいき一ツてあざやかといふ、日々の處〳〵、きれいなこゝろ〳〵〳〵は、ほそいみち〳〵〳〵、にごりたものはるらい〳〵〳〵みち、さあ〳〵月日せきより、一ツの理をさしづする〳〵〳〵

△明治貳拾壹年拾貳月貳拾五日午後七時(舊拾壹月貳拾參日)御本席様へ御身障りに付御伺

さあ〳〵よふきゝわけてくれ〳〵、さあ〳〵身上〳〵、さあ〳〵身上の處、一寸印ある、身上の處から一寸の事しらす、さあ〳〵日々はこぶ處に順序、事情さあ〳〵一寸の事ならはこぶ〳〵、きよも一寸、あすはどうであろさあ〳〵一寸の處からしらしをく、さあ〳〵一寸の處ふさぎたる處、あさきふかきもわからず、さあ〳〵たのまればあつかをか、たのむばかりはりいでない、事情やない、さあ〳〵けふもまたはこぶ、あすもまたはこぶ、さあ〳〵中にはまたいそぐ事もある、さあ〳〵いそぐ〳〵心にはけるこふな理がつかふことがでけん、さあ〳〵なをしておこふかというやふなものや、さあ〳〵日々はこぶ處〳〵よふきいておかねはわかりはせんで、さあ〳〵うつかりきいてわをかれんで、さあ〳〵もふ一事さあ〳〵、もふ一事〳〵二度三度〳〵さあ〳〵一度〳〵が二三で、さだめる一度三、三、で定める〳〵〳〵

△押して御願

さあ〳〵三三三一度、さあ〳〵一度二度三度、又三三三よ

ふきゝわけ〳〵、一度が三十日、又一度が三十日、又一度が三十日、さあ〳〵三三三でつとめれば、それが十分である

さあ〳〵りをもつて一つの咄し、三三三の理をもちて、みわけきゝわけがむつかしいてならんから、さあ〳〵こふく〳〵のりをみわけるがむつかしゐから、だん〳〵一ツのりをさとしたる處、さあ〳〵日々みわけるがつとめである

△同日午後九時御咄し

さあ〳〵よのぎであらず、だん〳〵はなしもつめ、その場〳〵の理はたてど、まづよふきいてをけ、こゝろの理といふはけふもあればあすもある、心の理はどふいふこゝろのあすのこゝろのりを思へ、どんな事もくどく、さとしてある理を思へ、わかるわからんの理をよくきけ、一度のりがしよがいのりと、理としてある、なんでものりをはこぶは一日、の理である、でも、こふでも、さしづ咄しのりをこふらんならん、幾度のり、二度三度の理も、これまでこふりたであろ、わすれたら尋ねるは〳〵いつ〳〵迄も尋てわ、どんならん、きかん間はそのまゝや、見ん間はそのまゝや、どふいふ事もしつている事は皆しつている、なによの事も

一日〳〵のりにわかりくる、一寸せきにきぶんのわるいのもしばらくごふいふものであろふと、ゆふものはなにかの處、しばらくの所、ずいぶん〳〵のりもひかへ、ぢゆぶん心をひかへ、これまでの噺をきいて、通るよふ、やれたものしやと、いふ日もある、ごふいふ事もきゝわけでくけるよふ、一日の日はごふいふ事もわかる、わからんの理はあれど、それでとふつてまた清水一ツの理がたより、ぬくみ一ツがたより、すみやか一ツの理をたがひ〳〵におしゑやい〳〵〳〵

△明治貳拾壹年拾貳月貳拾五日午後拾壹時半

御噺し

さあ〳〵〳〵一寸〳〵ながらゑて〳〵、なんの事ともわかろふまい〳〵よふこれをきいてくれ〳〵〳〵ほそい〳〵ながい〳〵さあ〳〵だん〳〵一ツ〳〵のといたる咄し、さあ一ツのりふかき處の一ツの理、あさい處の一ツの理、さあ〳〵たかい所にたつた一ツのりがわからん、ひくい所にも一ツの理ごんな事もたつた一ツの理はづかし、事のりはゆわんたつた一ツの理、むつかしい事はゆわん、ごんな事も一ツのり、ごんなものでも一ツの理さあさ

ああちらがつかさや、こちらがつかさにやさゆうた所がたつた一ツのり、さあ〳〵つたへてくれ、ふかい中のふかい中、どれだけの中てもつたへ一ツのり、はらのたつのもをこるのも、さあ〳〵せかいはたつた一ツの理、さあ〳〵きくなりすぐにみへる、たつた一ツの理さあ〳〵みな〳〵〳〵あちらへもこちらへも一ツのり、しらし是れがみな深い中や〳〵一寸しらしておく

△明治貳拾壹年拾貳月貳拾八日(舊拾壹月廿六日)梶本松次郎長男宗太郎二男國次郎兩人共

身の障りにて御願ひ

さあ……一時……、内々一時、さあ……小人……一ツの事情なる、一ツの事情、一日のひい……、一日のひの所よふきゝわけ、ばんじ一ツの理をおさめ……だんじやい、一ツの理、日々の處おさまらん、一日の、日は十分の理を、さあ……だん……もちてをさめ、おさめよふたをおさまらんやない、おさめ一日の日の所、内々の理をおさめばすみやかめん……から理をおさめ、内々の事情に人からどういふものであろ、又小人から一日のひいごおでもおさめ、おさめよふ治まらんやないで、ごふでも理をおさめい……

△押て御願

二度願い事情すみやか、日々の事情處一ツの事情、きいてなるほど、わかる〳〵、日々ごうでも理をおさめばおさまる、治まらんやをさまらん、をさめばをさまる、人をもちて一ツ〳〵理をさまる

△明治貳拾壹年拾壹月參拾壹日永尾辰技身のさわり御願

さあ〳〵小人〳〵、小人の身のさわり、よる……さあ……

よる〳〵身がふしぎ、身のさわり、小人たる處にてよふきゝわけねばならん、只一ツだん〳〵の咄し、めん〳〵の事情、世界の事情もこれよふ聞分けねばならんで、是小人に一ツの事情とゆふ、よふ聞ねばわからん、是迄にもさとしたる處、子の夜なきはおやの心からといふ事はわかりあろ、さあ〳〵めん〳〵内々には尋るまでやあろまい小人の處なんべんしらせごもおなじ事、ごふせいこふぜいはいわん、世上から日々出てくる事情をながめ、不自由するもこれそのりはあろうまい、このりをはやく聞きこれ

大正六年一月廿一日印刷
大正六年一月廿五日發行

不許複製

奈良縣山邊郡丹波市町
字布留百十二番地
發行者　天理教同志會
代表者　田邊要藏

大阪市西區北堀江御池通
一丁目九番地
印刷者　中村宗作

終